

事業名	地域食生活支援協力事業	事業区分：8)その他 事業タイプ：1)ポピュレーションアプローチ型事業
-----	-------------	--

実施期間	平成17年4月から必要時開催
実施主体	鷹栖町 保健福祉課 保健推進係
人口規模	7618人
所在地	北海道上川郡鷹栖町南1条3丁目
電話番号	
FAX番号	
E-mail	
担当者	



目的	町民が健康で豊かに暮らすために、食を介して地域へ携わる
実態把握	年6回、打合せ会議を行い、各機関のとりくみについて情報交換を行う
目標	各施設でおこなっている事業を協力し合って行えるようにし、栄養士の質を高めていく
評価項目 評価指標 評価手法 (評価手段)	
対象	町内の栄養士
内容	必要時会議を開催し、各施設でおこなっている事業を協力し合う
成果	
連携・地域 への拡がり	各施設と協力して地域での食生活改善支援を推進できるような体制をつくる
課題	
その他	

工夫した点	
-------	--

キーワード：地域食生活改善

事業名	給食施設における非常時の対応について 事業区分：その他
	事業タイプ：ポピュレーション・ハイリスク融合型事業

実施期間	平成19年度
実施主体	埼玉県川口保健所
人口規模	85万人
所在地	埼玉県川口市前川1-11-1

目的	災害時には、食事の提供や衛生管理に支障をきたし住民の健康状態に影響を及ぼすことが考えられる。そのため地域の栄養・食生活支援を円滑にすすめるために、災害時の対応等について管内給食施設の状況を把握するとともに地域のネットワークを構築することを検討する。
実態把握	給食施設への非常・防災食の聞き取り調査
目標	災害時の対応等について管内給食施設の状況を把握 各給食施設の危機管理に対する知識の習得と関係者間の情報共有
評価項目 評価指標 評価手法 (評価手段)	給食施設へのアンケート調査
対象	給食施設へのアンケート調査：川口保健所管内給食施設（医療機関、福祉施設等）73施設 研修会：川口保健所管内給食施設等に所属する栄養士等
内容	1 給食施設へのアンケート調査：給食施設巡回指導時に聞き取り等 2 研修会：テーマ「災害時の地域保健活動について」 (1) 講演 (2) 給食施設の取組の事例報告 (3) 情報交換 (4) 受講者アンケート
成果	各給食施設に災害時の対応（非常・防災食の備蓄やマニュアル等）を認識してもらうことができた。また、他の給食施設等と情報交換することで、情報を共有することができ、それぞれの施設で準備ができていない点を確認することができた。各施設の担当者の防災に関する意識が高まり、対応可能な範囲で検討しようとする意欲が高まった。
連携・地域への拡がり	各給食施設に災害時の対応（非常・防災食の備蓄やマニュアル等）を認識してもらい、お互いに関係者が顔を揃えたことで、他の施設へ問い合わせができるようになった。
課題	各給食施設ごとにマニュアル等の整備を進めるだけでは、地域全体の防災に対する備えが十分ではないと思われるので、保健所として情報提供やネットワークづくりを検討していきたい。
その他	研修会は、川口保健所管内給食研究会と共催で開催し、事例報告や防災食の資料提供等について御協力いただいた。

工夫した点	情報交換については、給食施設の種類や地域を考慮してグループ分けした。
-------	------------------------------------

キーワード：危機管理、マニュアル、防災食、給食施設

事業名	御坊市健康福祉まつり	事業区分：8) その他 事業タイプ：1) ポピュレーションアプローチ
-----	------------	---------------------------------------

実施期間	平成19年度
実施主体	和歌山県 御坊市役所 健康福祉課 健康増進係
人口規模	御坊市 26,592人
所在地	和歌山県御坊市菌336-3



目的	健康管理の普及啓発と保健福祉事業のPR
実態把握	特になし
目標	健康管理の意識の高揚
評価項目 評価指標 評価手法 (評価手段)	
対象	市民
内容	食育 ・健康食の展示 ・パネル展示 ・バランスガイドの作成 ・食事チェック
成果	・展示物の説明により、健康食への関心を高めてもらえたように思います
連携・地域 への拡がり	
課題	
その他	

工夫した点	パネルについては、パソコン処理で大きく拡大し、見やすくした。 加えて、ガイド説明も行った
-------	--

キーワード：

事業名	精神保健健康教室（調理実習）	事業区分：8 事業タイプ：1
-----	----------------	-------------------

実施期間	平成13年度～ 毎月（平成15年度～は各月）
実施主体	岩美町福祉保健課
人口規模	13,393人（4,404世帯） 平成20年7月1日現在
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1029番地2



教室で使ったレシピ

目的	生活に障害をもった当事者に対し、社会生活を維持するための支援の一環として、教室の中で、自分で食事が作れる力を身につけることを目的とする。
実態把握	当事者の家族から、自分たちも高齢になり、今後こどもが一人になった時の事が心配であるという声が聞かれるようになった。今から少しずつでも練習し、自分で生きていく力を身につけさせたいという要望があった。
目標	食生活に対して、個々人の今もっている力が、一歩ずつステップアップすること。
評価項目 評価指標 評価手法 (評価手段)	最終的な評価は、当事者が一人になった時、どう対応出来ているかであるが、当面は、個人の心の状態の不安定も考慮しながら、教室での調理実習に対する積極性が評価指標となりうると考えられる。
対象	町内の障害者小規模作業所通所者と地域で暮らす精神障害者など
内容	精神保健健康教室で、調理実習を行なう。 当初は、参加者からの「食べたい」「作りたい」などの要望にこたえた内容で実施していたが、家族からの要望に応えるためにも、平成19年度からは今後の生活に役立つ内容となるようなテーマにした。 平成19年度：「たまご料理」 平成20年度：「残ったご飯の工夫」・クッキー作り（バザーなどで出品出来るように）
成果	今まで料理をしたことがない人も、ほんの少しでも挑戦することが出来た。 一人暮らしの人・家で料理を作っている人は、献立の参考になった。 料理まではいかないが、皿洗いや片付けなどを手伝えるようになった。 嫌いなもの・食べたことがないものも、教室の中では、挑戦して食べる事が出来たりした。
連携・地域への拡がり	現在の参加者は、作業所通所者がほとんどであるが、地域で暮らす閉じこもり等対人関係の苦手な方が、いつでも社会参加できるためのきっかけ作りとなる教室である。
課題	1回の学習ですべてが実践できるわけではない。 継続していくことで、当事者が今後必要に迫られた時に、自分は出来るという自信をつけていくこと。 栄養士も障害に関する学習が必要である。
その他	その時々心の状態により、出来ることが変わってくる。 その時の心の状態に寄り添いながら、出来ることを増やして支援をするためにも、教室に携わるスタッフ（栄養士、保健師、作業所指導員、家族会など）の連携が必要。

工夫した点	通所者には様々な障害の方がいる（精神・知的など）。実習内容をよりわかりやすくするためと家からでもレシピを見ながら自分で作れるようにするために、工程の写真を加えたり、ふりがなをつけるなど、レシピに工夫を凝らした。 作業の関わりを少しでも多くするために、時間はかかるようになったが、少人数グループ制にし、自分の役割・新たなことへ挑戦する積極性・協力しあうなど、作業を通じて自分に自信をつける機会を増やした。
-------	--

キーワード： 障害者 支援 食の自立

事業名	市町村合併に伴う食生活改善業務について 事業区分：8) その他 事業タイプ： -
------------	--

実施期間	平成17年～18年
実施主体	宮崎県延岡市役所 福祉保健部健康管理課
人口規模	136,469人（平成19年4月1日）
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1



目的	1市3町の合併により、新協議会として活動が円滑に進み、さらに合併にともなう活動内容の変更による旧3町推進員の不安を解消するために、合併前に合同の研修の場を設ける
実態把握	旧町の推進員研修内容の把握
目標	新協議会の地区組織活動が市内全域で同じ内様の事業として実施できるように意思の統一を図る
評価項目 評価指標 評価手法 (評価手段)	事業の統一 研修内容の統一 事業実施後のアンケート調査
対象	延岡市、北方町、北浦町、北川町食生活改善推進員
内容	◆17年度：合併済の協議会会長を講師に事前研修会開催 (講話・調理実習・グループワーク) ◆18年度：17年度合併した推進員を中心にしたグループワーク・調理実習
成果	合併前から交流したことで、新協議会へおおよそスムーズに移行できた
連携・地域 への拡がり	合併前活動は行政の補助的な活動であったが、新協議会では、推進員が自ら動くボランティア活動を初めて経験した達成感や活動終了後に住民からの感謝の言葉を受け地区活動の喜びを経験し活動意欲が増した。また、活動の喜びを共に感じる仲間を増やしたいとの思いから1年かけて地区での講習会のたびに推進員勧誘をした結果、翌年には10名が養成講座を受講中である
課題	17年度合併した1町の成功例は前記のとおりであるが、他の1町は行政依存型からの脱却が難しく1年間行政と協議会で支援体制をとったが、年度末に推進員全員が辞めると申し出てきた。しかし、その地区での活動を絶やすことはできないので、慰留と新推進員の養成を課題に協議を持った。その結果、それまで以上の支援体制を強化することで残留が決まり現在に至る
その他	1市3町で合併したが行政栄養士は中心存在の市1名のみである。 行政栄養士の負担は大きくなり多忙であるが、しかし、指導者が1名であることが、旧3町の推進員にとっては頼らざるを得ない存在となり、協議会間の壁がなくなり、まとまりやすい結果につながった

工夫した点	活動内容の異なる協議会に編入する推進員の不安解消することを目的に事前に話しあえる場の設定をした
--------------	---

キーワード：まとめ役推進員のやる気